

目 次

第1章 人・教育：山下一也

- 1. 1 はじめに(1)
- 1. 2 X線「技術者」の形成過程
 - 1. 2. 1 X線「技術者」の形成(3)
 - 1. 2. 2 X線「技術」伝授の地域とその年代(5)
- 1. 3 X線「技術者」のX線「技術」教育・伝授の形態
 - 1. 3. 1 X線発生の実験と啓蒙(9)
 - 1. 3. 2 明治末期から大正期にかけての「科学・技術」と
「医学・医療」の背景.....(14)
 - 1. 3. 3 「技術」教育・伝授の形態(16)
- 1. 4 X線「技術」の教育とX線「技術者」団体の形成
 - 1. 4. 1 「技術」教育の発展(32)
 - 1. 4. 2 「技術者」集団の形成(45)
- 1. 5 あとがきにかえて.....(52)

第2章 X線装置・X線管および附属品：

加藤芳郎、青柳泰司、林周二、遠藤俊夫

- 2. 1 明治大正期
 - 2. 1. 1 概 説.....(55)
 - 2. 1. 2 実験、応用時代（1896年～1900年）(56)
 - 2. 1. 3 実用時代（1901年～1905年）(59)
 - 2. 1. 4 普及時代（1906年～1910年）(63)
 - 2. 1. 5 一次開発時代（1911年～1915年）(64)
 - 2. 1. 6 国産装置普及時代（1916年～1920年）(68)
 - 2. 1. 7 二次開発時代（1921年～1925年）(73)
- 2. 2 昭和期
 - 2. 2. 1 昭和期（1925年～1955年）までの発展の概要(78)
 - 2. 2. 2 X線管.....(79)
 - 2. 2. 3 高電圧発生装置.....(88)
 - 2. 2. 4 あとがき(115)
 - 2. 2. 5 文 献(115)
- 2. 3 付属品
 - 2. 3. 1 はじめに(119)
 - 2. 3. 1. a. カセット ホルダー(120)
 - 2. 3. 1. b. ブッキーブレデ(122)
 - 2. 3. 1. c. リーダー撮影台(123)
 - 2. 3. 1. d. シャウカステン(125)
 - 2. 3. 1. e. 防禦具(125)
 - 2. 3. 1. f. 透視台(127)

2. 3. 1. g. 角度計、計測器	(129)
2. 3. 1. h. 固定具	(129)
2. 3. 1. i. 遮光円筒	(130)
2. 3. 1. j. 絞り	(131)
2. 3. 1. k. 正射影装置	(131)
2. 3. 1. l. フィルムマーク、ナンバー	(131)
2. 3. 1. m. 管球支持器	(132)
2. 3. 1. n. 乾板移動装置	(135)
2. 3. 1. o. 管球容器	(136)
2. 3. 1. p. 測定器	(137)

第3章 感光材料等：飯塚芳郎

3. 1 感光材料	
3. 1. 1 緒言	(145)
3. 1. 2 明治・大正編	(145)
3. 1. 3 昭和編	(147)
3. 2 蛍光板・増感紙	
3. 2. 1 緒言	(153)
3. 2. 2 明治・大正編	(153)
3. 2. 3 昭和編	(154)
3. 3 現象処理	
3. 3. 1 緒言	(164)
3. 3. 2 明治・大正編	(164)
3. 3. 3 昭和編	(165)

第4章 撮影技術・造影剤：小倉佐助、遠藤俊夫

4. 1 明治大正編	(173)
4. 1. 1 明治期	(173)
4. 1. 2 大正前期	(179)
4. 1. 3 大正後期	(182)
4. 1. 4 まとめ	(185)
4. 2 昭和前期概要	(185)
4. 2. 1 1927～1935年	(186)
4. 2. 2 1936～1945年	(191)
4. 3 昭和中期	(197)
4. 3. 1 1945～1949年	(197)
4. 3. 2 1950～1954年	(199)
4. 3. 3 1955～1960年	(202)
4. 4 まとめ	(208)
4. 5 造影剤	(208)
4. 5. 1 X線用造影剤の初～中期の変遷	(208)
4. 5. 2 第二次世界大戦後の各種造影剤と検査法の発達	(212)

4. 5. 3	まとめ	(215)
第5章 管理技術：遠藤俊夫		
5. 1	1900～1926年（明治、大正時代）	(219)
5. 2	1929～1935年（昭和2～10年）	(220)
5. 3	1936～1945年（昭和11～20年）	(221)
5. 4	1946～1960年（昭和21～35年）	(222)
5. 4. 1	X線被曝管理に関する発表	(222)
5. 4. 2	放射線防護	(223)
5. 4. 3	環境管理	(224)
5. 4. 4	健康管理	(225)
5. 4. 5	管理用装置器具	(225)
5. 4. 6	放射線施設管理	(226)
第6章 口述史：加藤芳郎、遠藤俊夫		
6. 1	細江謙三	(227)
6. 2	梅谷友吉	(244)
6. 3	綱川高美	(258)
6. 4	赤松晴	(268)
6. 5	その他	(272)
第7章 技術史委員会公開討論会		
7. 1	はじめに	(273)
7. 2	撮影技術（X線検査技術）	(274)
7. 3	RI検査技術	(274)
7. 4	写真技術	(275)
7. 5	管理技術	(175)
7. 6	診断用X線装置・器具	(276)
7. 6. 1	X線発生装置	(276)
7. 6. 2	X線機械装置	(276)
7. 7	透視・撮影補助装置および防護用品等附属関連器具	(276)
7. 8	放射線測定・治療技術	(278)
7. 9	まとめ	(278)
第8章 日本放射線技術学会史：梅原傳介		
8. 1	はじめに	(281)
8. 2	学会創立に至るまでの概略	(281)
8. 3	昭和17年度（1942）と学会創立	(282)
8. 4	昭和18年度（1943）	(283)
8. 5	昭和19年度（1944）	(284)
8. 6	昭和20年度（1945）	(285)
8. 7	昭和21年度（1946）	(286)
8. 8	昭和22年度（1947）	(287)
8. 9	昭和23年度（1948）	(288)

8. 10	昭和 24 年度 (1949)	(290)
8. 11	昭和 25 年度 (1950)	(291)
8. 12	昭和 26 年度 (1951)	(292)
8. 13	昭和 27 年度 (1952)	(293)
8. 14	昭和 28 年度 (1953)	(295)
8. 15	昭和 29 年度 (1954)	(296)
8. 16	昭和 30 年度 (1955)	(298)
8. 17	昭和 31 年度 (1956)	(299)
8. 18	昭和 32 年度 (1957)	(300)
8. 19	昭和 33 年度 (1958)	(301)
8. 20	昭和 34 年度 (1959)	(303)
8. 21	昭和 35 年度 (1960)	(304)

	日本放射技術学会創立準備委員会記録内容抄録	(309)
--	-----------------------	-------

第 9 章 技術史年表：遠藤俊夫、飯塚芳郎

9. 1	X線装置に関して（日本を中心に）	(333)
9. 2	撮影技術の変遷	(335)
9. 3	海外における放射線に関係した事項	(339)
9. 4	核医学	(340)
9. 5	感光材料	(341)
9. 6	蛍光板・増感紙	(344)
9. 7	現像処理	(347)
9. 8	造影 X 線検査の歴史（日本を中心に）	(349)
9. 9	主な造影剤の開発の歴史	(353)